

南南協力の展望

国連開発計画(UNDP)、途上国間技術協力部
南南協力シニア・アドバイザー 藤村建夫

南南協力の発展過程

- 黎明期: 1960年代～1980年代

- 1961: 非同盟運動の開始
- 1964: 第一回国連貿易開発会議
- 1967: ASEANの成立
- 1972: 国連総会において途上国間技術協力に関する作業部会の設置
- 1974: 国連総会が新国際経済秩序を要求
国連開発計画がTCDCに関する総会作業グループを設置(SU/TCDC)
- 1978: 国連支援による「途上国間技術協力会議」の開催:
ブエノスアイレス行動計画の採択
- 1980: 国連総会の第一回ハイレベルTCDC委員会の開催
- 1981: G77 ECDCに関するハイレベル会議をカラカスで開催
- 1985: SAARCの設立

• **成長期: 1990年代 ~ 2000年代**

- 1991: MERCOSURの設立
- 1992: SADCの設立
- 1993: 第一回、TICADの開催(アジア・アフリカ協力)
- 1994: COMESAの設立
- 1995: 国連総会、TCDCの新方向を採択
- 1997: G77のハイレベル会議(サン・ホセ)で内陸国・小島嶼国の開発を提唱
- 1998: 第二回、TICADの開催
- 1999: G77のハイレベル会議(パリ)で域内・小域内協力ECDC行動計画を提唱
- 2000: 国連千年紀サミット開催(MDGの採択)
第一回、**南サミット**をハバナで開催
- 2001: 国連、最貧国(LDC)会議において南南協力の強化を採択
- 2002: 開発と金融会議において、南南協力の増大を勧告
NEPADの設立
- 2003: 第三回、TICADの開催
G77のハイレベル会議(Marrakech)の開催
- 2005: アジア・アフリカ会議50周年会議

3

南南協力を推進する中心的な途上国

- **アジア:** 中国、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、パキスタン、シンガポール、タイ
- **中南米:** ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、キューバ、メキシコ、ペルー、トリニダード・トバゴ
- **中近東:** エジプト、モルタ、チュニジア、トルコ
- **アフリカ:** ガーナ、ナイジェリア、セネガル、南アフリカ
- **近年、南南協力を熱心な国々**
ベトナム、

4

先進諸国の南南協力への対応

- 日本：先進諸国の南南協力推進のチャンピオン
JICA：第三国研修、第三国専門家、三角協力
パートナーシップ(タイ、マレーシア、シンガポール、
ブラジル、チリ、メキシコ、エジプト、チュニジア) U
NDP経由：人造り基金の南南協力事業資金
- アメリカ：USAIDが保健分野で積極的に推進
ネットワーク支援、視察旅行、技術指導と訓練、会議
- EU：欧州地中海パートナーシップを1995年に設立
2010年までに自由貿易圏の設置を目指している。

5

南南協力の制約要因

- 組織制度的制約
技術協力実施機関のキャパシティの制約
運営管理能力(方法論)の弱さ
専門的知識・経験の不足
援助人材の能力不足
- 予算的制約
年間予算総額の不足：数億円
- 知識・技術的制約
高度な技術、精度の高い技術の不足

6

これからの南南協力のあり方

- **先進諸国：**

援助機関の関心が高まってきており、三角協力の実績が増大している。他方、国連の議論の場では相変わらず南北問題で対応している。特に米国。

EUは最近徐々に好意的になってきている。

日本に対する期待は高く、実績をベースに、もっと自信を持ってリードして行くべき。ただし、方法論をもっと革新し、形態別定食メニューからアラカルト・メニューへの対応強化・拡充が望まれる。

7

- **中心的な国々**

より一層推進して行く国

中国、マレーシア、タイ、シンガポール、
インド、チュニジア、メキシコ、チリ、ブラジル、
南アフリカ

- **中心国の今後の課題**

G77で採択した実行計画の実施

実施能力(キャパシテイ)の強化・改善

予算の拡充

ドナーとの協力による三角協力の拡大

8

南南協力から見たTICADの意義

- **アフリカ版 Look Eastとしての役割:**
アフリカの人々のアジアへの知的好奇心を高めた。
- **アジアの人々に対してアフリカ市場を紹介する役割**
アフリカについて、アジアの人々を啓蒙し、市場としての可能性を提供した。
- **NEPADを支援する絶好の具体的手段としての役割**
先進諸国のNEPAD支援対策として、絶妙のタイミングで支援を表明。イラク支援による援助資金のアフリカ逃避の印象を和らげた。同時にアジアの国々の力強い対アフリカ協力の推進を印象付けた。
- **アジア・アフリカ協力推進のエンジンとしての役割**